

～うきはの“地の利”、“人の利”、“時の利”を伝える～

「うきはブランド通信」

U B C ~ukiha brand communication~



平成30年6月27日
福岡県うきは市



(報道各社への取材の御案内)

うきはゆかりの「宇宙飛行士」エリソン・オニヅカ氏のふるさと **ハワイ島**にむけて

キラウエア火山噴火からの復興を祈る

「千羽鶴」を折ろう



～道の駅うきはで、当面7月末まで実施中～

今年5月、米ハワイ島のキラウエア火山で発生した火山活動により、家屋などへの被害をはじめ、主要産業である観光への影響も生じている。ハワイ島生まれの宇宙飛行士、故エリソン・オニヅカ氏の祖父母はうきは市浮羽町高見出身で、同氏は1983年に先祖の墓参りに訪れた際、浮羽中学校での記念講演で「夢に向かって努力しよう。きっと夢はかなえられる」と語り生徒たちに勇気を与えた。

同氏は1986年1月のスペースシャトル「チャレンジャー号」爆発事故で殉職されたが、郷土ゆかりの宇宙飛行士の偉業を語り継ごうと1996年に浮羽町高見で架け替えられた橋は「エリソン・オニヅカ橋」と名付けられるなど、エリソン氏の顕彰活動が続けられている。

今回、エリソン・鬼塚氏を後世に語り継ぐ実行委員会では、同氏の生まれ故郷ハワイ島での噴火に際して、お見舞いの気持ちを込めて、「キラウエア火山噴火からの復興を祈る『千羽鶴』を折ろう」という取組を道の駅うきはの「ウキハコ」で、6月23日から当面7月末まで行っている。

奇しくも、今年(2018年)は明治元年(1868年)から起算して満150年に当たり、同じくハワイへの「移民150年」の年でもある。実行委員会では、この節目の年に、両国の絆を深める取組となることを祈念しながら、市内外にむけて協力を呼びかけている。

○問い合わせ エリソン・鬼塚氏を後世に語り継ぐ実行委員会(事務局長 関健児 Tel.090-8768-5488)



▲ 道の駅うきはの「ウキハコ」で千羽鶴を折る実行委員会のみなさん



▲ エリソン・オニヅカ氏

編集: うきは市総務課広報係 (Tel.0943-75-4980)

※FAX を手にとられた方は、「うきは市ホームページ」掲載のカラー版を御覧ください→検索 うきはブランド通信

2018.6.27 発表/エリソン・オニヅカ氏の故郷ハワイ島にむけて、火山噴火からの復興を祈る「千羽鶴」を折ろう